

4b
760
AB11

教育学科
資料室

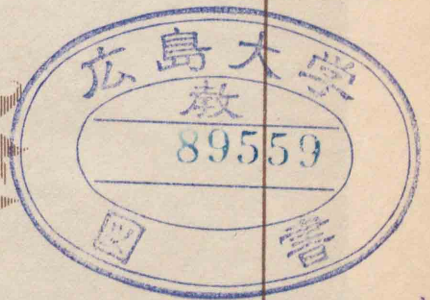
教科書文庫
4
760
52-1934
2000089559

昭和九年三月三十日
文部省檢定済
師範學校・高等女學校音樂科

新女子音樂教科書

若狹萬次郎編著

第三編



広島大学図書
2000089559



東京

合資会社 共益商社書店發行

花

武島羽衣

春のうららの隅田川
のぼりくだりの船人が
權のしづくも花と散る
ながめを何にたとふべき
見ずやあけぼの露浴びて
われにも言ふ櫻木を
見ずや夕ぐれ手をのべて
われさし招く青柳を
錦おりなす長堤に
暮るれば上るおぼろ月
げに一刻も千金の
ながめを何にたとふべき

旭

一 仰ぎ見よや
東の空に
昇る旭を
万象めざめて
森羅蘇生す
二 仰ぎ見よや
東の海に
昇る旭を
乾坤廻りて
四溟明か

戀しき山河

一 うららの日かげに花は咲けど
故郷思へば心わびし
父母同胞つつがはなきか
夢にも見ゆるよ郷の小山
名残を惜しみて別れし春は
再び此の身にめぐり来る
何れの時にか事成し遂げて
戀しき山河馴れにし山河
我は訪はん

犬童球溪

二 空の月かげ清くすめど
故郷思へば眼曇る
おととい友がきつつがはなきか
夢にも浮ぶよ郷の小川
我が家を離れて幾年月を
すごしし此の身に秋は来る
何れの時にか學を終へて
馴れにし山河戀しき山河
我は訪はん

春の光

一 うららの春の空

のどけき空の色

山にも野邊にも喜満ちたり
咲く花霞に匂ひて雲とまがひ
吹雪する櫻花日傘にひらひら
神の恵四方にあふれ
人の心常に樂し 春の眺
胸を張りて少女もいざ歌へ

命若き春の姿

ララララララ ララララララ
たのしや うれしや

二 うららの春の海

なごめる海の色

岸にも島にもどけき満ちたり
潮の香新に白帆も軽くすべり
櫻鯛をどるとき黄金の波散る
神の恵四方にあふれ
人の心常に樂し 春の眺
聲をあげて舟人いざ歌へ

命若き春の姿

ララララララ ララララララ
たのしや うれしや

脇

太

一

旭

Maestoso. Rolle.
mf f mf
一 ア フ ギ ミー ヨー ヤ ヒ ガ シ ノ ソ
二 あ ふ ぎ みー よー や ひ が し の う

f p
ラ ニ ノ - ボ - ル ア - サ - ヒ - ヲ バ ン -
み に の - ぼ - る - あ - さ - ひ - を け ん -
ノ - ボ - ル ア サ - ヒ ヲ
の - ぼ - る あ さ - ひ を

シ ャ ウ メ ザ メ テ シ - シ ラ ソ セ - イ - ス
こ ん め ぐ り て し - め い あ き - ら - か
シ - - - - シ ラ
し - - - - め い

送別の歌

Moderato. スコットランド歌謡曲



送別の歌

森 迫 武

一世の人こそりて 君を待てり
 年來修めし徳と才と 顯に示さん時は今ぞ
 雄々しく行きませ いざや友よ
 二 流石に名残の 惜しくあれど
 別に臨みて何か言はん 徳もて才もて幸く務め
 明るき我が世と なせや友よ

發行所

東京市芝區松本町四十四番地

會社 共益商社書店

電話 三田 (45) 四〇五七 四〇五八 四〇五九 四〇六〇 番番番

不 復 轉 騰
 許 製 載 寫

昭和八年九月二十三日印
 昭和八年九月二十六日發
 昭和十一年九月廿五日修
 昭和十一年九月廿八日修

訂 行
 發 行
 刷 行

編著者 若 狹 萬 次 郎

東京市芝區松本町四十四番地

發行兼 會社 共益商社書店

代表者 白 井 保 男

印刷所 共益商社書店印刷部

第一編	定價金五拾五錢
第二編	定價金五拾五錢
第三編	定價金六拾錢
第四編	定價金六拾錢
第五編	定價金六拾五錢